

幼児向け紙芝居ができました。

滋賀県では男女共同参画社会づくりに向けて、子どもたちの個性的で伸びやかな成長に役立つ幼児向け紙芝居の原作を募集しましたところ、全国から24点の応募がありました。審査の結果、優秀作1点、佳作2点が選ばれました。
なお、優秀賞受賞作品は、印刷して滋賀県内の幼稚園や保育園等に配付します。

募集期間：平成15年6月17日～9月30日

審査委員：

- 審査委員長 永田 萌 (イラストレーター、絵本作家)
- 今関信子 (児童文学作家)
- 松本立子 (滋賀県保育指導員)
- 田中敏孝 (高月町立高月幼稚園長)
- 安藤よし子 (滋賀県副知事)

入賞作品：優秀賞「そらがキラキラ」

牛原京子さん (甲賀郡甲西町)

佳作2点

- 「あおいろはだれのいろ？」
こいけいこさん (大阪市)
- 「お母さんのかんちがい」
川嶋富美子さん (近江八幡市)

審査委員長
永田 萌さん

作品に込めたメッセージ

我が子だけでなく、まわりの子どもの育成も見守る地域の人々のような設定で、「木」を持ってきました。一人ひとりがそれぞれ違っていいこと、また一人では生きていけないこと、独りぼっちではないこと、自分らしく何をしたいかなどを、私なりに幼児にわかるように紙芝居にしてみました。
(作者 牛原京子さん)



審査委員長 講評

「そらがキラキラ」は、自然を舞台にした、生命の誕生や成長の過程にきめ細やかな目を向けてリズムのいい文がつづられ、それを受けて明るくダイナミックな画面が展開します。子どもたちの心を引きつける魅力がいっぱいつまっています。特にラストのいろいろな色の羽を持つ蝶たちが個性の大切さをよく伝えてくれますね。

滋賀県男女共同参画課 TEL 077-528-3071 FAX 077-528-4807

図書資料室から

メディアやメディア・リテラシーの本

メディアのなかで繰り返し流される情報の中には、知らず知らず私たちの心に「男は～するべき」「女は～してはいけない」などの固定観念を形作ってしまうものもあります。

図書・資料室では、今までとは全く別の角度からメディアを読み解くための各種著書や資料を取りそろえています。その新鮮な視点で、メディアのあちこちをつぶさに観察してみましょう。目からウロコの驚きが体験できるかも。「何

かおかしい」と発見したら、あなたもりっぱなメディア・ウォッチャー。

広報担当者の方には「ジェンダーの視点からの広報の手引き」「男女共同参画の視点でのイラスト集」などもありますので、ぜひご利用下さい。その他「こどもとメディア」の本、メディア・リテラシーの本もあります。



- 利用時間：9:00～17:00(木曜～20:30) ●貸し出し：1人5冊まで、3週間借りられます。
- 休室日：月曜日・祝休日の翌日・年末年始・図書整理日

男女共同参画 相談室より

相談開設一覧

相談専用電話 0748-37-8739

●総合相談(電話・面接)

火・水・金・土・日曜 9:00～17:00
木曜 9:00～12:00 17:00～21:00
(受付 ～20:30)

●専門相談(面接、要予約)

家族問題カウンセリング 第1土曜 13:00～17:00
男女共同参画法律相談 第2金曜 13:00～17:00
こころとからだの相談 第2木曜 13:00～17:00
DV相談 第3金曜 13:00～17:00

その他、出張相談も実施しています。
詳しくは、センターへお問い合わせください。

2月のある寒い朝…やっとな歩き着いた駅で、何とか座りたいと早めにホームに立ち、背を丸め両の手で耳を覆い、これでもかという雪まじりの風にさらされながら、心の中に怒りを抱え電車を待っている時、何処からか「大丈夫ですよ・もうすぐ電車が来ますからね。」という声が聞こえてきたのです。声のするほうに顔を向けると、小学校5、6年くらい歳の男の子がそこにいました。言葉とは不思議な力を持っています。私の心は一瞬にして春の光に包まれました。
あれから何年も経ちましたが、私はあの少年のように人の心に届く言葉を、相談に来られた方々に届けられているのかと、日々自問自答しています。
届いていますでしょうか？
「大丈夫ですよ、今のあなたに必要なものは全てあなたの周りにあります。」
一緒に考えて行きましょうね。



People (株)光子発生技術研究所 代表取締役社長 山田 礼子さんに聞く

■会社の概要を教えてください。

その名のとおりに「光子=光」を発生させる装置を製造・販売する会社です。我が社の「みらくる-6X」は、世界最小の高輝度X線発生装置として、医療や半導体の分野などで世界的な注目を集めています。

■会社設立のきっかけは？

「みらくる-6X」を開発した立命館大学教授の山田廣成は私の夫です。「この世界初の技術を自分たちの手で社会に送り出したい」と、当時はまだ珍しかった大学発ベンチャーとして会社を興すことになりました。発起人会での話し合いの末、夫がより研究に専念できるようにと、私が社長に就任することになりました。

■社長業で苦労された点は？

経営者としては全くの素人でわからないことばかりでしたが、勉強しながら、人に尋ねながら、一つひとつハードルを乗り越えてきました。「女性」ということで理不尽な扱いを受けることもありましたが、誠意を持ってお話すればわかって下さることも多かったです。様々な苦労はありましたが、それらは全て「今」につながる必要なものであったと思います。

■これまでも様々な仕事をされてきたそうですが、

大学卒業後は小学校教諭。夫の研究のため各国を転々とした際も、日本語補修校教諭などの仕事を続けてきました。滋賀に来た1995年から4年間G-NETしがに勤務し、10周年記念誌の編集や通信の発行、図書資料室の新聞クリッピングなどに取り組みながら、社会学や女性学を学びました。この間に学んだことやネットワークは、現在も大きな財産となっています。

■夫や家族の協力は？

子どもたちは小学生の頃から家事を分担してきました。夫は元々協力的でしたが、休日出勤が原則のG-NETしが勤務時代には、土日はずっと炊事を担当したため、腕に磨きがかかったようです(笑)。現在は社会人になった子どもと夫、私が当番制で食事を作っています。



■プロフィール

静岡県出身。小学校教諭、東京学芸大学帰国子女教育センター研究補佐、G-NETしが勤務等を経て1997年10月現社を設立、代表取締役社長就任。

■女性が働きやすい環境作りにも取り組まれているとか。

平成15年度滋賀県経済振興特区制度調査委員会委員をした時「経済分野では女性はまだまだ力不足」という認識を強くしました。滋賀の女性ももっと経済活動で力を発揮するべきです。そのバックアップ体制を作るために、行政や女性企業家に働きかけ可能性を探っているところです。産官学連携による全く新しい支援システムを作っていけたらと思っています。

*3 滋賀県経済振興特区制度

「滋賀県産業振興新指針」の推進に向けた重要なプロジェクトのひとつ。地域の特性に応じた経済振興特別区域を設定し、地域経済を先導していく産業の創出・振興に向けて、市町村、事業者、地域住民が協働して実施する自発的な産業振興策に対して「選択と集中」による幅広い経済振興の特別措置を講じ、地域経済の活性化を図っていく滋賀県独自の新しい制度。

いま地域では

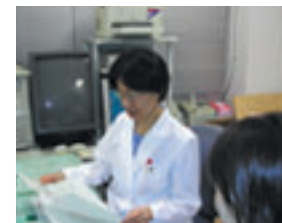
近江八幡市 女性医師による女性専門相談窓口開設 「近江八幡市民病院」

近年、男性医師には話しにくく、また理解されにくい女性の体の不調や悩みを相談できる窓口として、主に女性医師が診療にあたる「女性外来」開設の動きが全国的に広がっています。

2002年9月には、県内の公立病院としては初めて近江八幡市民病院に「女性専門外来」が開設されました。「女性総合外来」「更年期・思春期外来」の2つが設置され、特に「女性総合外来」は、じっくり時間をかけて心身の悩みを相談できる新しい形の診療となっています。「1人30分ですが、お話を聞いていると足りないくらいです。改めて性差を考慮した医療に対するニーズが高いことに気づかされました。また、じっくりと総合的に助言できるという点で、一般外来でもこのような形の診療ができればいいですね。」と担当の須貝順子医師。

一般外来と重ならない診療時間の設定、BGMを流す等、細やかな配慮もされています。性差に応じた医療、患者が納得し、満足できる医療への取り組みが今、はじまっています。

近江八幡市民病院「女性専門外来」
TEL 0748-33-3197 ※完全予約制。
予約は月～金14:00～17:00に電話で受付。

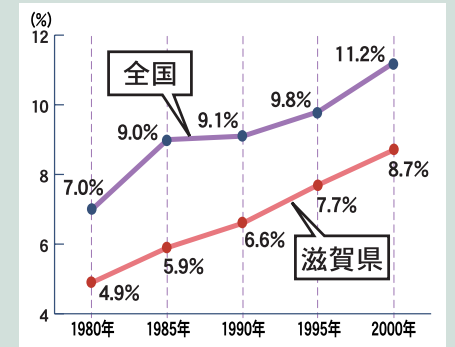


女性総合外来担当、麻酔科・須貝順子医師

Topics 管理的職業における女性従事者

男女共同参画社会を実現していくためには、これまでの男性中心の社会慣習を見直し、地域や職場などでの政策や方針決定の場へ女性が参画していくことが望まれます。

■管理的職業における女性従事者の割合



1980年には4.9%だったものが2000年には8.7%と着実に増えてきていますが、全国平均と比べるとまだまだ低いのがわかります。

国勢調査(総務省)「管理的職業に従事する者の割合」